

～ ひかり探Qプロジェクト～

テーマ「私たちの探Qは今」(一年次)

山口県立光高等学校 1年 神代 悠
1年 長富 世奈

1 探究(Q)との出会い

私たちと探Qプロジェクトとの出会いは、中学校を卒業して3月末に開催された「ひかり探Qプロジェクト」発表会に参加したことからである。

私たちと同じ中学校を卒業した高校2年生の先輩による発表で、「光市に魅力ある“体験”で人をもっと呼びたい」というテーマを掲げた探Q活動の報告であった。私たちにとって、高校生が光市の将来について考えたりその方策を企画したりといった活動は、とても大きな驚きとともに、一方このような取組に興味を感じるものであった。

そして、高校進学後の5月、第1回「ひかり探Qサロン」への参加案内が届き、そのチラシの中の「スイーツを囲みながら、光市の魅力や好きなこと、やってみたいことなどを自由に語り合います」という最初の言葉に少し心をひかれて会場に足を運んだ。

参加者は、高校生は私たちと発表者の先輩の3名、他は大学の先生をはじめ、中学の校長先生、市役所や教育委員会の方などで、やや緊張しながらの自由な語り合いの会であった。しかし「光市を良くしよう」という共通の想いのもと、様々な立場の方からの意見を聴くことができ、スイーツも美味しく、とても新鮮な体験であった。



2 探Qスタート「気になる」探し

私たちの探Qは、「光市について『気になる』探し」からスタートした。手順は、第1段階で光市の「ちょっと『気になる』ひと・もの・こと」について、思いつくままに洗い出す作業を行い、第2段階で、その中から特に気になるものをピックアップした。

それが、光市のイベント「おっぱいまつり」である。その名称は聞いたことがあるが、具体的にはどんなイベントなのかよくわからず、以前から気になっていたものである。

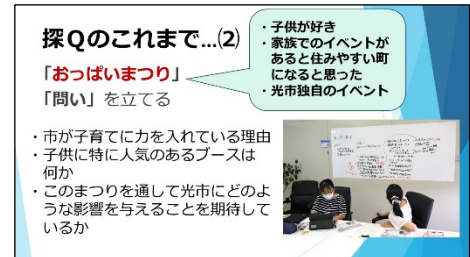


また、「おっばいまつり」を取り上げた理由として、私たち自身「子どもが好き」で、このイベントはその名称から光市独自のものだということ、さらに、このような家族でのイベントがあると住みやすい街づくりにつながると思ったからである。

3 「気になる」に対して「問い(Q)」を立てる

今回の「おっばいまつり」に対する「問い」を立てる作業の前に、このイベントの内容について、光市のホームページや光市役所のイベント担当の方からいただいた資料等をもとに事前調査を行った。その上で次の「問い」を立てた。

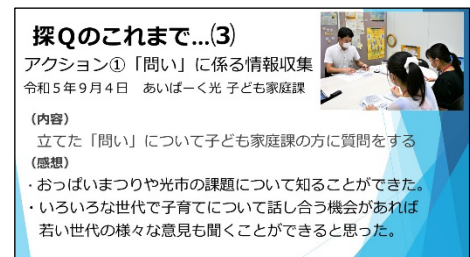
- 光市が子育てに力を入れている理由は何か。
 - 子どもに人気のあるブースはどんなものか。
 - このまつりを通して、光市にどのような影響を与えることを期待しているか。
- など、その他十数個の質問を考えた。



4 「問い」に係る情報収集

これらの「問い」について、イベントの事務局である光市役所子ども家庭課の担当の方を訪ねて、お話を伺った。一つひとつの質問に丁寧に対応していただき、過去の「おっばいまつり」の内容や光市の課題等についても知ることができた。

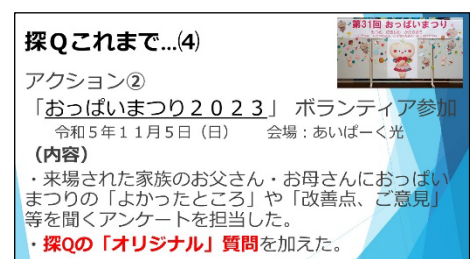
また、この情報収集を通して、「いろいろな世代で、子育てについて話し合う機会があれば、もっと若い世代の人の様々な意見も聞くことができるのではないかな？」と思った。



5 「おっばいまつり 2023」ボランティア参加

今回、子ども家庭課の訪問を通して、本年度の「おっばいまつり」をお手伝いするボランティア参加の機会を得ることができた。

内容は、来場された家族のお父さん・お母さんに、このイベントについて「よかったところ」や「改善点、ご意見」等を聞く、インタビュー形式のアンケート（事務局作成）係である。イベント事務局から「比較的会場内を自由に動けることから、イベント全体が見えるのでは」とご配慮をいただき実現したものである。



さらに、私たちが考えた「探Qオリジナル質問」を加えることも可能であったので、次の質問を追加してインタビューを行った。

【探Qオリジナル質問】

★「光市の子育ての面での良い点と、もっとこうあったら良いなと思う点」についてお聞きする。

おっぱいまつりのアンケート質問

- ▶ どちらからいらっしゃいましたか
- ▶ 何を目的にいらっしゃいましたか
- ▶ おっぱいまつりのよかったところ
- ▶ おっぱいまつりへのご意見、ご要望、改善点
- ▶ 今年は開催時期を変更しましたが、いかがでしたか。

探Qのオリジナル質問

- ・ 光市の子育ての面での良い点
- ・ もっとこうあったら良いなと思う点



6 ボランティア参加を通して見えてきたこと

アンケートを実施して、私たちが担当した人数分のデータから主だった意見を整理してみた。

【良かったところ】

- ・ いろいろなブースがあり子どもたちが楽しめた。
- ・ 子育ての情報がたくさん得られた。
- ・ リサイクルマーケットが安くて助かった。
- ・ スタッフさんが声をかけてくれたので迷わずにすんだ。…など

【要望・改善点】

- ・ 駐車場がわかりづらかった。
- ・ 市外にもイベントについてのお知らせをしてほしい。インスタグラムなどを使ってアピールしてほしい。
- ・ 買って食べられるものが欲しい。…など

おっぱいまつり

良かったところ

- ・ いろいろなブースがあって、子供たちが楽しめた。
- ・ 子育ての情報がたくさん得られた。
- ・ リサイクルマーケットが安くて助かった。
- ・ スタッフさんが声をかけてくれたので、迷わずにすんだ。

要望・改善点

- ・ 駐車場がわかりづらかったので、わかりやすくしてほしい。
- ・ 市外にもイベントについてのお知らせをしてほしい。インスタグラムなどを使ってアピールしてほしい。
- ・ 買って食べられるものが欲しい。
- ・ ブースが多すぎるので、場所を広くしてほしい。

今回のボランティア参加を通して、私たちの気づきや感想は以下の通りである。

- たくさんの方が参加していて、違う国籍の方も参加していた。
- 育児用品マーケットは、列ができるほど人気だった。今回は開催時期の変更（今回：11月、前回：8月）があったためか、子供服の夏服があまり売れていなかった。
- 周南市や岩国市など市外の人も多く来ていて、初めてこのまつりを知ったという人が多かった。

【感想：市外へのPR活動をもっと行くと、より多くの人が来場すると思った。】

- ステージイベントがあるときに、人があまり集まっていなかったように感じた。

【感想：館内アナウンス等、何か工夫があるとよいと思った。】

次に、私たちが考えた「探Qオリジナル質問」に関する回答は以下の通りである。

気づき

- ・ たくさんの方がおっぱいまつりに参加していて、違う国籍の方も参加していた。
- ・ 育児用品マーケットは列ができるほど人気だった。
- 開催時期を変更したので、子供服の夏服があまり売れていなかった。

感想

- ・ 周南市や岩国市の人など市外の人にも多く来ていて、初めてまつりを知ったという人が多かった。
- 市外へのPR活動をもっと行くと、もっと人が来ると思った。
- ・ ステージのイベントがあるときに人があまり集まっていなかったの
- で、館内アナウンス等の何か工夫があると人が集まると思った。

《 光市の子育てについて 》

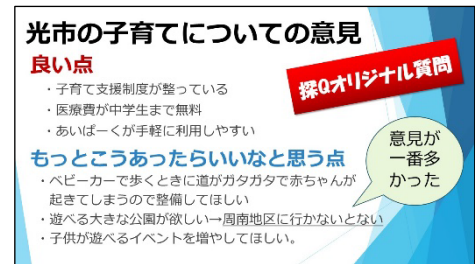
【良い点】

- 子育て支援制度が整っている。
- 医療費が中学生まで無料である。
- 「あいぱーく」が手軽に利用しやすい。

【もっとこうあったら良いなと思う点】

- ベビーカーを押しながら歩くときに道がガタガタで、赤ちゃんが起きてしまうので歩道を整備してほしい。
- 子どもが遊べるイベントをもっと増やしてほしい。
- 子どもが遊べる公園が欲しい。（※ 周南地区に行かないと求める公園がない…）

この「探Qオリジナル質問」の結果を整理して、一番多かった意見は、上記下線部の光市に「子どもが遊べる公園が欲しい」であった。



7 新たな「問い」と仮の探Qテーマ

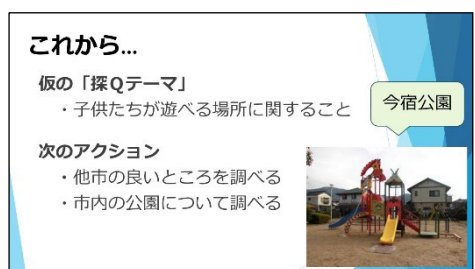
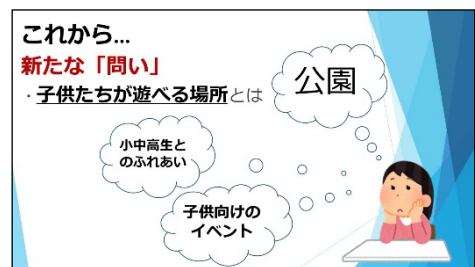
私たちが、今回の「探Qオリジナル質問」を通して特に着目したことは、意見が一番多かった「子どもが遊べる公園が欲しい」という部分である。改めて考えると、「そういえば、よく耳にする内容」であり、「これといった公園が光市には…」と思うところである。

そこで、私たちの中で「子ども達が遊べる場所とは…」どのようなものか、という新たな「問い」が生まれた。その場所は、例えば公園や地域のふれあいの場、子ども向けのイベント等が考えられるが、まずは「公園」の実態について調べてみたいと思った。

また、現在私たちの探Qは、具体的なテーマがまだ決まっていないため、現段階において今後を見据え、仮の探Qテーマ「子ども達が遊べる場所に関すること…」として活動を進めていくことにした。

そして、今後のアクションとしては、

- 市内の公園について調べる。また、
- 他市の公園の良いところを調べる。…を考えている。



8 探Qプロジェクト中間報告

第2回「ひかり探Qサロン」において、これまでの探Q活動の中間報告を行った。参加者は、前回と同様大学の先生や中学の校長先生、県や市の教育委員会の方など緊張が隠せないメンバーであったが、今回は新たに中学生3名の参加がありとても嬉しかった。

中間報告に関しては、このような多くの大人の方の前で発表するのは初めてであったが、全員が「光市のことが好き」という気持ちに立ち、世代を越えた自由な話合いの中でたくさんのアドバイスをいただき、今後の探Qを進める上で活動の視野が広がった。

また、今回初参加の中学生の発言から、将来地元の魚を活用した料理人になりたい、将来地元でペット関連することで起業したいなどワクワクする具体的な想いを聴き、驚きとともに感動を覚えた。



9 公園の実態調査その1

アクションその1として、市内にある身近な公園に行って調査を行い、「子ども達が遊べる場所」という視点から探Q活動を開始した。

はじめに、私たちの自宅近くで公園（児童遊園地）と呼ばれている場所5か所について調査を行った。

【調査のまとめ】

- 遊具は少ないがきれいに整備されている所
- 遊具はなく広い空き地のみの所
- 安全性の面でやや気になる所
- 公園がある自治会の人の当番で、適切に維持管理がされている所…など

このように、それぞれの公園によって実態が異なっていた。今回は一部の公園の調査であったが、実際に現地に足を運んで見えてくる現状から、もっと別の公園についても調べてみたいと思った。



10 公園の実態調査その2

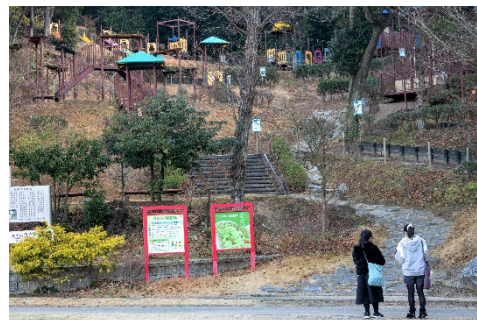
次に、比較的に規模が大きい「光市冠山総合公園」の中にある「子どもの森広場」に行って調査を行った。

ここは、小学校の

時、遠足で来たことがあるが、「子どもの森広場」全体が山の斜面に造られていて、遊具も斜面を活用しているものが多く、その数や内容も充実している。

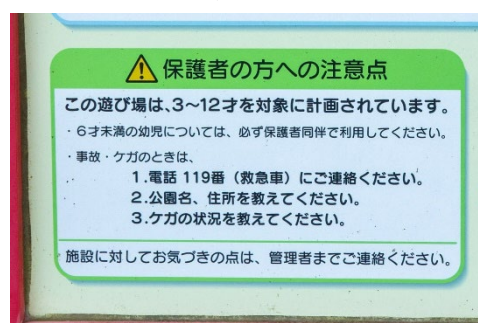


しかし、立地環境による斜面の現状から考えると、利用に怖さを感じる子どもがいるのではないかなと思った。さらに安全性の面から、遊具周りの足元は斜面の所が多く、一部は整備してあるものの、一緒に来た大人も運動靴のような履物の方がよいだろうと思った。また、一例として「年齢の上の子を遊ばせようと、下の子をベビーカー等で連れて」といった親子の来園には向かないように感じた。



今回訪れた日は肌寒い日であったが、二組の来園者と出会った。一組目は祖父母とお孫さんで、祖父母の方が遊具で遊ぶお孫さんを見守ながら一緒に移動していた。二組目は、私たちが「子どもの森広場」を後にした直後に来られた親子で、お母さんが小さなお子さんを腕に抱いて、幼児と思われる上の子が先に広場に上がって行った。その時、私たちは「お母さん大丈夫かな」と少し心配だった。

この「子どもの森広場」は、入口の看板に「この遊び場は、3～12才を対象に計画されています。6才未満の幼児については、必ず保護者同伴で利用してください」と書かれているが、今回の調査を通して、私たちがいくつかの課題が見つかるとともに、この「子どもの森広場」は大人の見守りと日ごろの環境整備がとても重要であることを確認した。



11 今後の取組の方向性

私たちは、公園の実態調査を通して、その現状から様々なことが見えてくるにつれ、以前にも増して「子ども達が遊べる場所としての公園」について、探Q活動を進めたいと考えるようになった。これまでは、(仮)探Qテーマを「子ども達が遊べる場所に関すること…」として、調査活動を中心に行ってきたが、この時点で、改めて今後の取組の方向性について話し合った。その結果が以下の通りである。

- 市内の公園の調査を、範囲を広げて継続する。
- 光市の「子ども達が遊べる場所」に関する情報発信として調査した公園のPRをする。併せて、PRの具体的な方法について検討する。
- 子ども向けのイベントにボランティア等で参加して、子どもたちや親が求めている公園像について情報収集を行う。
- 子どもたちが遊べる場所として、「光市といえば〇〇公園だよね」というような場所づくりに関する提案をする。

これらの取組の方向性に向かい、私たちの探Qは今進行真っ最中である。今後は、私たちの想いをより多くの人と共有しながら、さらに広い視点から活動を進めたいと思う。